

ウイルスの侵入防止 “対策徹底を”

国内26年ぶり、岐阜市で豚コレラ発生!!

詳細は「<https://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/chikusan/kachiku-eisei/11437/tonkoreranistuite.html>」を参照

【発生概要】

- 農場 岐阜市 繁殖豚79頭、肥育豚531頭飼養（9月9日岐阜県発表）
- 経過 9月3日 死亡豚の通報、家保が病性鑑定（蛍光抗体陰性）
9月7日 豚コレラの疑い（PCR遺伝子検査陽性、8/24採材血液から抗体を確認）
9月9日 農研機構動物衛生研究部門で精密検査、患畜決定

【防疫措置】

- 発生農場 9月9～11日 殺処分、埋却、消毒等（11日完了）
- 移動制限 半径 3km以内
- 搬出制限 半径3～10km以内（農場3か所、1,012頭飼養）
- 消毒ポイント 半径10km内外に5か所設置
- 関連農場等 発生農場が利用していたと畜場とたい肥場等に関連する13農場について、臨床検査と抗体検査（9/10、11）→ 異常がないことを確認

【今後の対応】（解除時期は、発生の拡大がない場合）

- 発生農場 1週間間隔で2回以上消毒実施
- 移動制限等 10月10日に移動制限解除（見込み）
- 岐阜県内農場 全て（51農場）に毎日健康状態等の報告を要請
- 関連農場施設 衛生管理プログラム等を策定し、対応予定

【お願い】

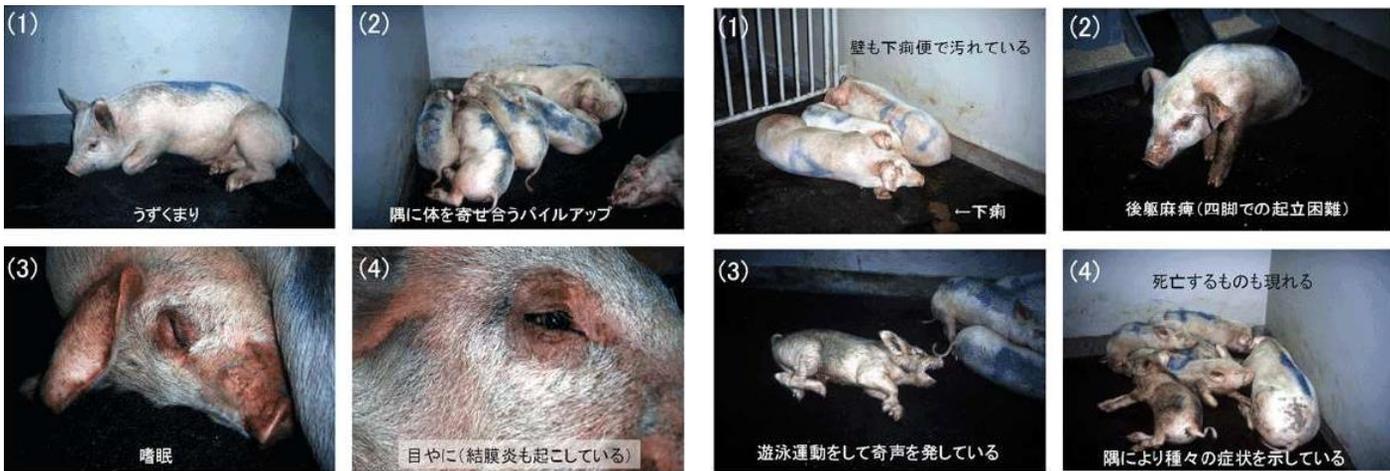
飼養豚に豚コレラを疑う異常を認めた場合（次頁参照）は、速やかに飯田家畜保健衛生所（TEL0265-53-0439）に連絡をお願いします。
休日、夜間は担当者に転送されます。

豚コレラの防疫対策

【病気の特徴】

- ✓ 原因は豚コレラウイルス(感受性動物は豚、イノシシ、人には感染しない)
- ✓ 主に口と鼻から感染し、年齢等にかかわらず全ての豚で発生(症状は多岐にわたる)
- ✓ 潜伏期間は一般に2～6日が多く、感染豚は唾液、涙、糞尿中に多量のウイルスを排泄する
- ✓ 発症から死亡までの日数により、急性型(10～20日)、亜急性型(21～30日)、慢性型(30日程度)
- ✓ 急性型では、発熱(41～42℃)、元気消失、食欲減退等を示し、沈うつとなって豚房の方隅に重なり合って寝転んだり物憂げに佇む
- ✓ 発熱と同時に便秘傾向となり兔糞状の硬い便を排泄、発病後期には黄～黄褐色の粘液性便となる
- ✓ 結膜炎が認められ、病気が進むと、運動失調、後躯の萎弱→歩行困難、神経症状、奇声
- ✓ 耳翼や下腹部、四肢の血行障害による紫斑→死亡(致死率は極めて高い)
- ✓ 慢性型は、初期には急性型と同様の症状を呈し、その後一時的に軽減するが削痩しヒネ豚となる
- ✓ ワクチンはあるが、現在、日本では、清浄化の維持のため、ワクチンを使わない防疫体制をとっている(緊急時には必要に応じて使用)

写真: 豚コレラの臨床症状(農研機構動物衛生研究部門のホームページより)



【ウイルスの侵入防止対策】=アフリカ豚コレラも同様

- ✓ 人、物、車両によるウイルスの持ち込み禁止
 - ・衛生管理区域・豚舎への出入りの際の洗淨・消毒の徹底
 - ・衛生管理区域専用の衣服、靴の設置と使用の徹底
 - ・人・物の出入りの記録
 - ・飼料に肉を含み、又は含む可能性のあるときは、予め70℃、30分間以上、又は80℃、3分間以上の加熱処理を徹底
- ✓ 野生動物対策
 - ・豚舎にイノシシを近づけない
 - ・飼料保管場所等へのネズミ等の野生動物の排せつ物等の混入防止
 - ・豚舎周囲の清掃、整理・整頓
 - ・死亡家畜の処理までの間、野生動物に荒らされないように適切に保管
- ✓ 関係者が発生国へ行く場合の留意事項 (発生国からの研修生等も同様)
 - ・家畜の飼養場所、家畜市場等の畜産関連施設へは近づかない
 - ・関連施設へ立入ったり、豚等(の肉)と接触した場合は、帰国時に動物検疫所のカウンターに立寄る
 - ・発生国から豚肉や肉製品を国内に持ち込まない。